

第5回検討会議事要旨

1. 検討の背景について

- ・「消費者製品」という用語の使い方に注意すべき。
- ・消費者へのばく露の可能性が拡大しているといった趣旨を明記すべき。
- ・検討の対象として、ナノマテリアルの廃棄については含めなくともよいのではないか。

2. 検討の範囲について

- ・リポソームについては、現時点で検討対象から除外する必要はないのではないか。
- ・一般の人に対してどのようなばく露形態があるのか、調べる必要があるのではないか。
- ・省庁間の役割分担を整理して、間に落ちる事例がないようにすべき。

3. 開発の現状及び最新の科学的知見について

- ・物質ごとの記載だけでなく、ナノマテリアルが使用されている製品ごとの記載も簡単に追加してほしい。
- ・今後の用途の見通しを可能なら記載してほしい。

4. 規制の現状について

- ・欧米の現状についても記載してほしい。

5. 安全対策に係る課題と今後の方向について

(1)(3)の①について

- ・ナノマテリアル製造事業所周辺である疾病の頻度が高いといった情報やナノマテリアルが人の健康へ悪影響を及ぼし得るといった情報を収集できる仕組みが必要ではないか。
- ・ヒアリング調査だけでなく、より詳細にナノマテリアルに関して情報収集する仕組みが必要ではないか。

(2)(3)の②について

- ・ばく露法及びばく露評価法について記載してほしい。また、in vivoスクリーニング法の開発についても記載が必要ではないか。
- ・マウスと人間の違い、体内分布の測定法、慢性影響試験、生体試料中での分析法について記載してほしい。毒性メカニズムが分かった後で、スクリーニング法を開発することになるのだろう。

(3)(3)の③及び④について

- ・産総研のプロジェクト等とも連携して研究を進めるべき。

(4)(3)の⑤について

- ・ナノマテリアルの安全対策の現状について整理してほしい。